

# やまだリハビリテーション研究所主催研修会

訪問看護ステーションで掛け持ち勤務する OT が  
訪問で働くリハ職と看護師に伝えたいこと

開催

2018年5月16日（水）  
19時～21時（受付開始 18時半より）

会場

阿倍野市民学習センター 3階第1研修室  
地下鉄阿倍野駅下車 <http://osakademanabu.com/abeno/access>

定員

30名

参加費

2000円

講師

やまだリハビリテーション研究所

山田 剛(作業療法士)



講義内容

2018年同時改定で訪問看護ステーションからのリハビリ職の訪問について制限がかかりました。看護師の定期的な関与が必要との改正に対していろいろな意見があるようです。複数の訪問看護ステーションで掛け持ち勤務する立場から今回の改定でいろいろ考えたことをお伝えします。

- ☑ 訪問看護ステーションにリハ職が勤務する意義
- ☑ 訪問看護ステーションと訪問リハビリテーション事業所のこと
- ☑ 訪問看護ステーションでの看護師とリハビリテーション専門職の連携のこと
- ☑ 非常勤掛け持ちで勤務している訪問看護ステーションでの普段の働き方のこと
- ☑ 作業療法士が非常勤の立場として職場で工夫していること

申し込み&お問い合わせ

やまだリハビリテーション研究所ホームページ <http://yamada-ot.com>



お問い合わせ [info@yamada-ot.com](mailto:info@yamada-ot.com)

2018年同時改定においてはリハビリテーション専門職が多数在籍する訪問看護ステーションが軽度の要介護者を中心に多数訪問を行っていることが指摘されました。

訪問看護ステーションに勤務している訪問看護ステーションに勤務する、リハビリテーション専門職の間ではかなり話題になっていますが、私が勤務するリハ少数の訪問看護ステーションではほとんど話題になっていません。管理者さんがシフトを少し組み替えることを考えているだけです。

また、看護師が中心の普通の訪問看護ステーションにおいては訪問リハ事業所ではいろいろな加算が算定できるのに、訪問看護ステーションのリハ職が何の加算も算定できないという事実も知りません。

2018年4月現在、3カ所の訪問看護ステーションに勤務しています。2カ所はリハが1人、もしくは2人で看護師がメインで24時間対応しているステーションです。1カ所はリハが多数在籍するステーションです。そんな複数の職場で掛け持ち勤務する作業療法士の立場から、訪問看護ステーションにこそリハビリテーション専門職は必要だと考えています。1~3名くらいのリハビリスタッフがステーションにいて、訪問看護ステーションで実践できるアプローチは豊かになります。

病院で7年、老人保健施設で7年、訪問看護ステーションで10年、ここ数年は非常勤掛け持ち作業療法士としてフリーで働いている立場から、訪問看護ステーションで働いている現状をお伝えします。

現在、訪問看護ステーションで働いているリハビリテーション専門職や看護師さんに、知っておいてほしい制度改定のことや、看護師とリハの連携のこと、訪問看護ステーションで働いている看護師さんがリハ職を使いこなすために知っておいてほしいことなどをお伝えします。

**【次のページの講演予定のレジメがあります】**

# 訪問看護ステーションに掛け持ち勤務する OT が

## 訪問で働くリハ職と看護師に伝えたいこと

やまだリハビリテーション研究所

作業療法士 山田 剛

### 1、2018年同時改定のこと

- 「看護師の定期的な関与」のこと
- 「訪問看護ステーションからのリハビリ」のこれまでの経緯
- 看護師メインのステーションだと、ほとんど話題にならない「定期的な関与」

### 2、訪問看護ステーションと訪問リハビリテーション事業所のこと

- 訪問看護ステーションからのリハビリは訪問看護です
- 訪問リハ事業所で算定できる加算のこと
  - ◆ リハビリテーションマネジメント加算
  - ◆ 生活機能向上連携加算

### 3、訪問看護ステーションでのリハ職と看護師の連携のこと

- 訪問看護ステーションに OT が 1 人
- 実は連携が苦手なリハビリテーション専門職
- リハ専門職を「先生」と呼ぶことの弊害

### 4、リハビリテーションからの卒業のこと

- 訪問リハビリテーションからの卒業は難しい？
- 卒業させると利用者さんが減る問題のこと

### 5、非常勤掛け持ち勤務している訪問看護ステーションでの普段の働き方

- カルテの確認、連絡ノートの確認
- 新規訪問ですること
- 昼休みの情報交換
- 看護師にもお願いするリハビリテーションのこと

### 6、掛け持ち勤務で工夫していること

- メール、LINE での連絡
- 電子カルテは非常に楽
- 情報の共有に必要なこと
- 自分が不在時の関わりのためにしていること